



マスクでのコミュニケーション —顔認知の発達からみた重要性—

日時 ▶ 令和6年1月5日(金) 13:00—14:30(3限目)

場所 ▶ 150階段講義室

対象 ▶ 看護学科1・2年生, 関心のある学生, 教員他

講師 ▶ 山口 真美 先生 中央大学文学部 教授
科研費 新学術領域「顔・身体学」領域長

講演内容

新型コロナウイルス感染症の流行により、マスクで顔を常に隠す生活になり、私たちは見えない部分を推測し、他者とコミュニケーションをとらなければならなくなりました。このマスクによるコミュニケーションが生後間もない乳児や子どもの顔認知の発達にどのような影響を与えているのでしょうか。また医療現場におけるマスクでのコミュニケーションを図る際の留意点は何なのでしょうか。顔認知研究の世界的第一人者の山口真美教授による最新の研究成果とともに、みなさんで一緒に考えてみませんか。



多数のテレビ出演 (NHK『視点・論点』NHK BSプレミアム『ヒューマニエンス』等) や、著書 (『赤ちゃんは顔を読む』『こころと身体の心理学』『あかちゃんごきげんしゃかしゃか』絵本監修等) を執筆。わかりやすく解説していただきます。